



【八十八夜に県茶業試験場で行なわれた手もみ茶講習会】

晩霜で新茶は2割高

最近、若い人はお茶をあまり飲まなくなりましたが、日本人にとつてなんといつても生活に欠くことができません。

富士市でも富士山麓の丘陵地を利用して年間3245トン、3億6780万円を生産しています。ところが今年は、晩霜の被害で新茶の収穫は昨年より少なく、このため値段も2割高となっています。

多かった野菜の量目不足

全商品100グラム当り11セントの値上り

毎日の生活に買物は欠かすことのできないものです。

牛肉100グラムで120円。今日は安かつたとか、高かつたとか、毎日の買物に苦労されていると思います。

ところが、食品などを買って家に帰ってから目方を計る人はほとんどいないと思います。値引をしてもらつても量が少なければ、安い買物をしたのか、高い買物をしたのかわかりませんね……。

そこで、富士駅北地区の婦人生活学級の計量モニター20人は、試し買いによる量目調査を行ないました。調査は食料品と洗済の22品目を対象にし正味量表記商品とはかり売り商品の目方が正しいかどうか、また前回と比べて物価はどうであるかについて調べました。

正量の基準は、誤差プラス4セントから、マイナス2セントのものを正量に、不足はマイナス2セントを超えるもの、過量は4セントを

えるものとしています。

正味量表記商品（袋容器に密封され、内容量が表記されている商品）は、全体の20セントが、量が多いか少ないかでした量が正確であつたのは、食肉、魚貝卵などの9商品でした。量が少なかったものは菓子、豆類、水産加工品、野菜でいずれも20セント以上の不足でした。特に悪かつたのは野菜で39.3セントの不足でした。これは長い時間店頭にあつたため目方が減つたのだと思われます。

はかり売り商品は、全体の約27セントが量が多かつたり少かつたりでした。量が正確なのは3商品で、15セント以上の不足は9商品もありました。特に悪かつたのはお茶とバター、チーズ類でした。

前回（昭和45年7月～9月まで）と今回

の物価を比べると、全商品100グラムあたりの値段は平均11.1セント高くなっています。

1年に1割以上も値段が高くなっているということは、家計を預かる主婦にとつてたいへんなことですね。品物によってはかり売り商品の方が得なもの、正味量表記品が得なものがあります。不用な買物みえ買などしないで、より上手な買物をするようにし

みましょう



件数 228件
(3月までに677件)

死者 5人
(3月までに 8人)

負傷者 124人
(3月までに333人)



四月の 火災件数 交通事故



9件発生
(3月までに 27件)

損害額 138万円
(3月までに1256万円)

負傷者 1人
(3月までに 死者1人
負傷者3人)